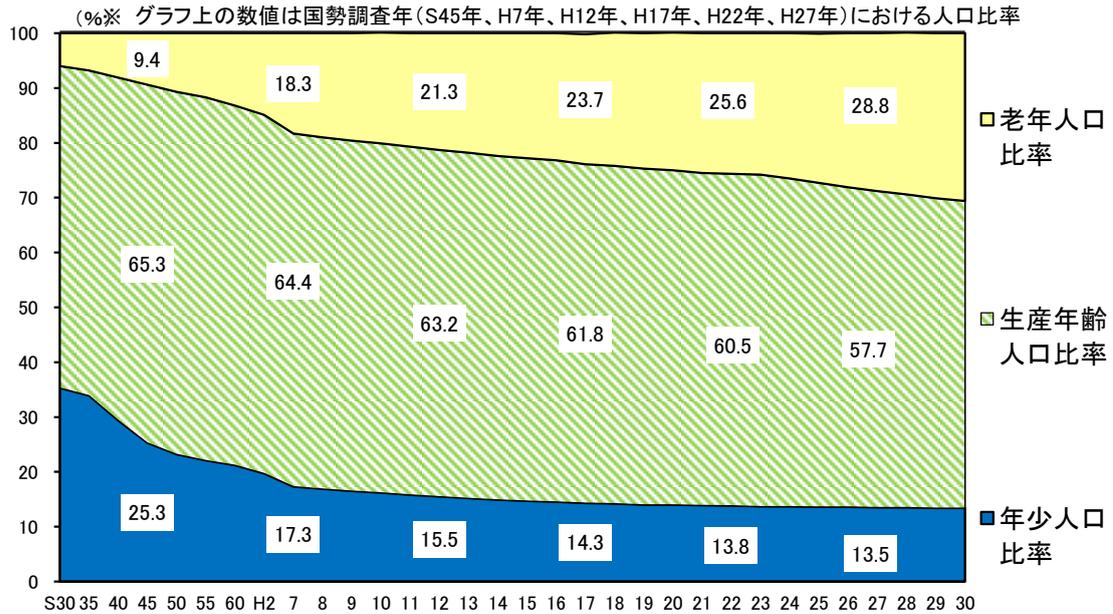


熊本県の年齢3区分別人口比率の推移



解 説

【概要】

平成30年の県内の年齢3区分別人口比率をみると、年少人口13.4%（前年13.4%）、生産年齢人口56.0%（前年56.5%）、老年人口30.6%（前年30.1%）となっており、生産年齢人口は、全体の約6割を占めた。

昭和30年以降の推移をみると、昭和50年代を境に生産年齢人口が減少し始め、また、年少人口は平成年代初期に2割を割り込み、それ以降も減少が続いている。

一方で、65歳以上の老年人口比率の推移をみると、昭和30年に6.0%だったものが、平成12年には21.3%と2割を突破し、平成30年には30.6%（全国28.1%）と全国平均よりも早く高齢化の進行が続いている。

○年少人口
0歳から14歳までの人口

○年少人口比率
 $\text{年少人口} \div \text{総人口} \times 100$

○生産年齢人口
15歳から64歳までの人口

○生産年齢人口比率
 $\text{生産年齢人口} \div \text{総人口} \times 100$

○老年人口
65歳以上の人口

○老年人口比率
 $\text{老年人口} \div \text{総人口} \times 100$

資料出所	調査期日	調査周期
「人口推計年報」総務省統計局	平成30年10月1日	毎年